

III. 刊行報告書抄録

第164集 桑下東窯跡

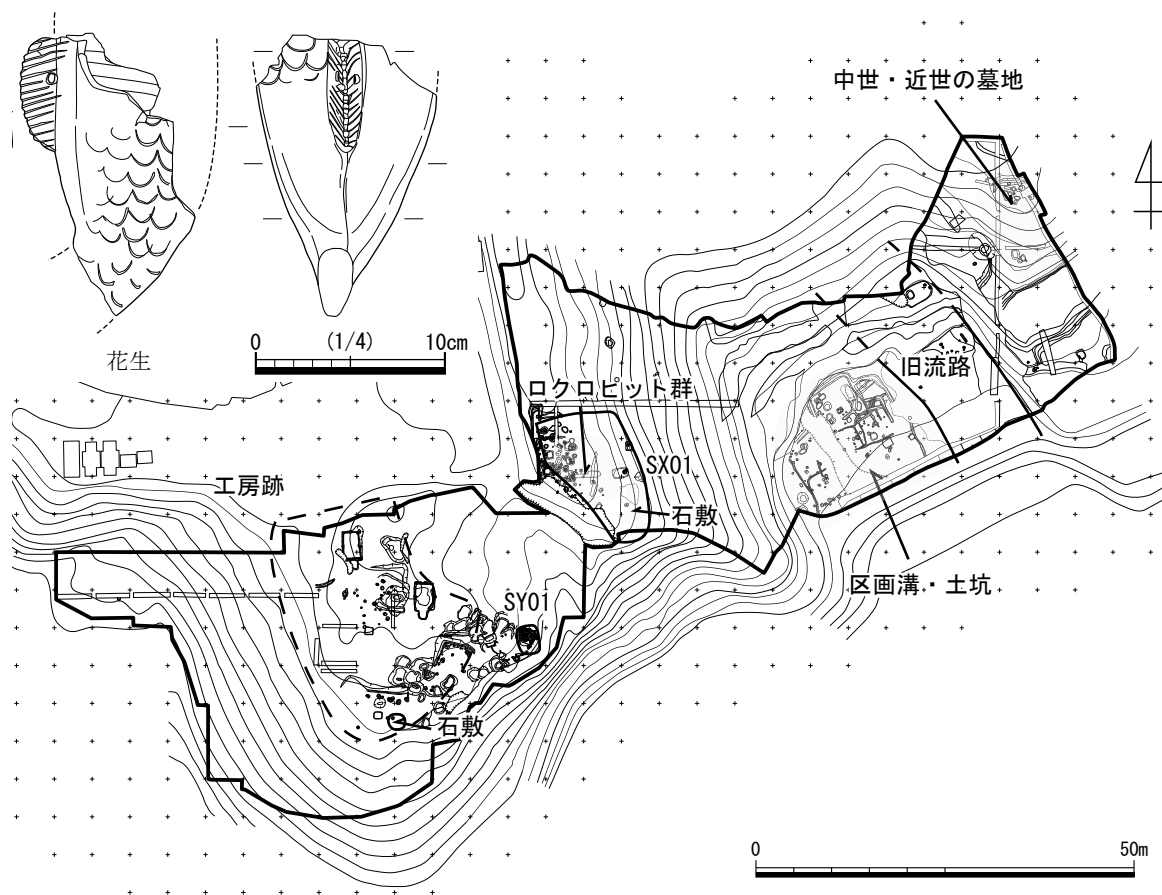
桑下東窯跡の発掘調査は平成17年(2005)度に国道363号道路改良工事に伴う事前調査として、平成17年(2005)9月から平成18年(2006)3月にかけて実施した。平成20年(2008)度より平成21年(2009)度の1年6ヶ月間に二次整理と報告書作成作業を実施した。

桑下東窯跡では、水野川北側丘陵部の南北に広がった丘陵(南北約80m東西約60m)を南北43m東西37mの範囲内で、山側の斜面を削り平坦面を拡張し、窯に伴う各施設を整備していた。遺構が見られる部分と遺構立地可能な滅失部分を含め丘陵部全体の面積を復元すると約1,425㎡で、この面積の約60%の875㎡が滅失し、40%の残った部分での遺構群である。

調査区は5区設定し西からD区E区A区C区B区で、丘陵部はD区E区A区である。

南東端に窯体1基SY01が、その西側に選別施設SX02・SX03、工房、乾燥施設SB01、倉庫SX06がある。地滑りにより滅失した窪地北側、丘陵の南東端に石敷を施した大規模造成地と約50㎡の平坦面に40基の密集した轆轤ピットが見られ土坑群の様相であった。轆轤ピットは総数55基見られた。

丘陵頂部付近の平坦部を利用し、作業場を造成し、竪穴建物、粘土溜、轆轤工房、掘立柱建物を設け、丘陵全体で轆轤から製品選別までの一連作業が行われ、さながら焼き物工場のような状況が見られ、「窯大將組織」が想起される。そして丘陵の東谷C区に区画溝に区画された建物があり、出土遺物が丘陵の工房址と比べ器種が豊富で生焼け製品が少なく、また焼き上がり良好な製品が多いことからC区は製品を集荷し出荷する建物があった屋敷の可能性はある。(小澤一弘)



主要遺構配置図(1:1,000)

報告書抄録

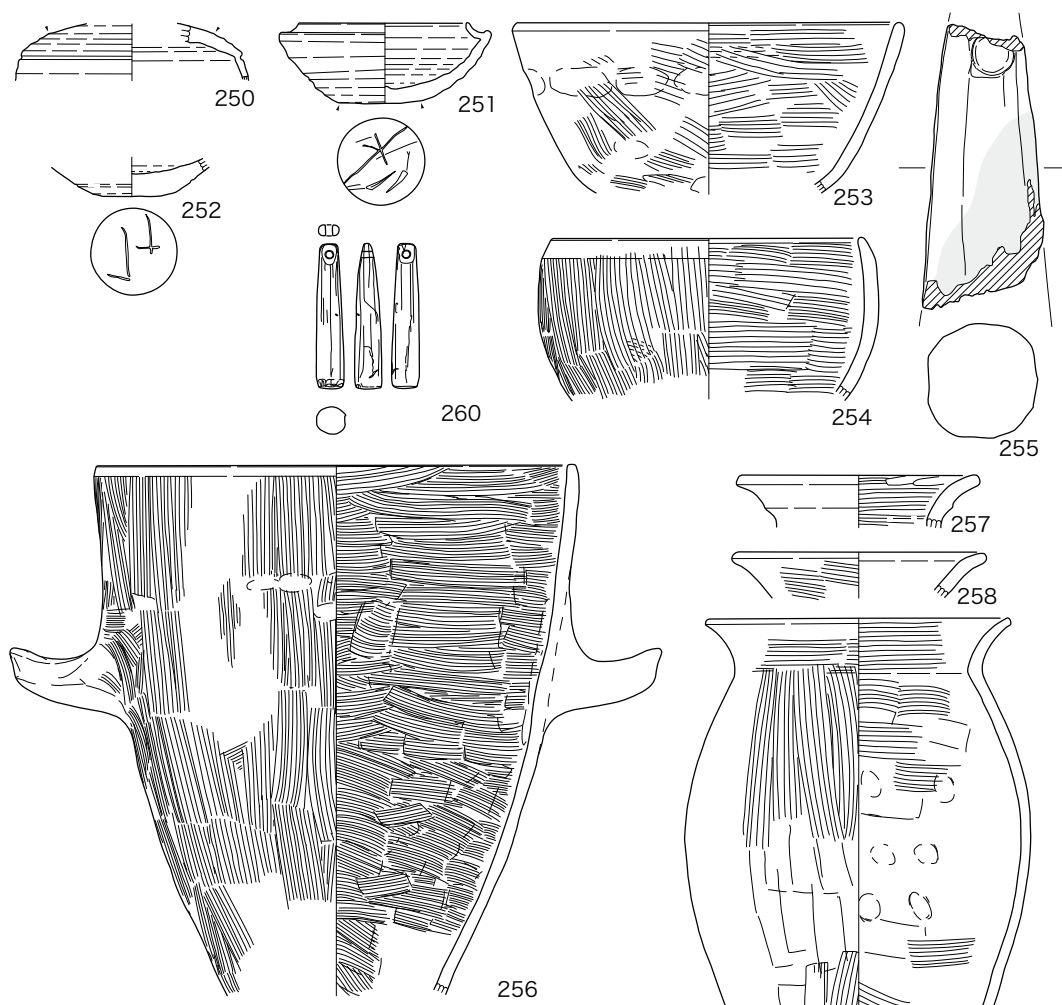
ふりがな	くわしたひがし かまあと							
書名	桑下東窯跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第164集							
編著者名	小澤一弘 武部真木 藤根 久・Lomtadze Zaur ・黒沼保子（パレオ・ラボ）							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦2011年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くわしたひがし 桑下東 かまあと 窯跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	0030709	35度 15分 25秒 (世界測地系による)	137度 8分 33秒	2005.9 ～2006.3	4,726	国道363号 道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
桑下東 窯跡	窯跡	戦国時代	窯体1基.石敷作業場 ロクロピット55基 竪穴建物 掘立柱建物	狛犬.魚形掛花生 天目茶碗.鎗蓮弁文丸碗 端反皿.陵花皿.丸皿 陵皿.銅緑釉皿				
文書番号	発掘届出(17埋セ 第20号) 通知(17教生 第736号) 終了届(17埋セ第135号) 発見届・保管証(17埋セ第135号) 監査結果通知(18教生 第537号)							
要約	水野川の北側の南北に広がった丘陵に大規模な施設（窯、石敷、工房、乾燥施設、倉庫、選別施設と、狭い範囲に密集したロクロピットが40基、遺跡全体では55基のロクロピットを検出したことから工人集団の窯大將組織が想起される16世紀前半大窯1段階の窯跡である。また丘陵東谷には屋敷跡があり集荷出荷の建物があった可能性も考えられる。							

第165集 西浦遺跡

豊橋市石巻町に所在する西浦遺跡は、石巻山南麓にあり、三輪川左岸の河岸段丘上に立地する。調査の結果、縄文時代・弥生時代～古墳時代前期・古墳時代後期～平安時代・鎌倉時代～江戸時代前期・江戸時代後期の5期に大別される遺構や遺物が確認された。調査成果は多岐に及ぶが、弥生時代中期の土器棺墓3667SKではその構築過程が判明したことや、古墳時代後期の竪穴建物跡2745SBでは現位置を保った状態と思われる土器群(下図)が確認されたことなどが注目されるだろう。また建物跡は、その可能性があるものを含めると、184棟以上が検出されており、長期にわたり断続的に営まれた集落遺跡であるとまとめることができる。

(鈴木正貴)

2745SB 出土遺物



出土遺物実測図

報告書抄録

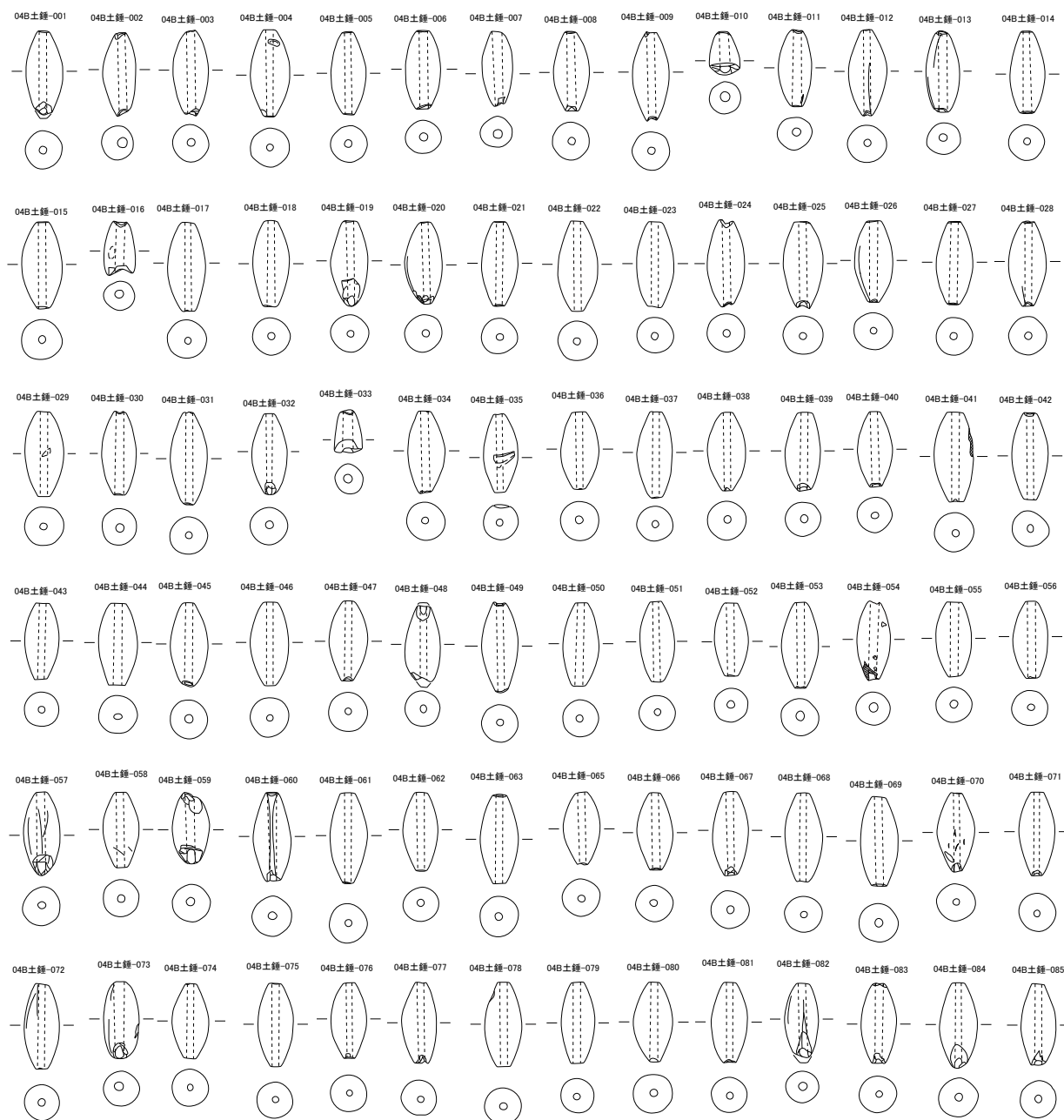
ふりがな		にしうらいせき						
書 名		西浦遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第165集						
編著者名		鈴木正貴、宮腰健司、鬼頭剛、佐々木由香、バンダリ スダルシャン、黒沼保子						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24						
発行年月日		西暦 2011年 3月 31日 TEL0567(67)4161						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
にしうらいせき 西浦遺跡	とよはしし いしまちちょう 豊橋市石巻町	23201	790349	35度 47分 09秒	137度 26分 15秒	20060706～ 20070319	6700㎡	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
西浦遺跡	集落	縄文時代 弥生時代～ 古墳時代前期 古墳時代後期 ～平安時代 鎌倉時代～ 江戸時代前期 江戸時代後期		煙道付炉穴 竪穴建物跡、 方形周溝墓、 土器棺墓など 竪穴建物跡、 掘立柱建物跡、 溝、土坑など 掘立柱建物跡、 溝、土坑など 掘立柱建物跡、 溝、井戸など		弥生土器、土師器 石器など 須恵器、土師器 灰釉陶器など 山茶碗類、 瀬戸美濃窯産陶器、 石製品、木製品、 金属製品など		弥生時代中期から 江戸時代の集落 銅鐸の石製舌が 出土
文書番号	発掘届出(18埋セ第17号・2006.6.20) 通知(18教生第741号・2006.7.7) 終了届・保管証・発見届(18埋セ第100号・2007.3.15)							
要約	今回の調査で確認された遺構や遺物は5期に大別される。縄文時代では煙道付炉穴が検出されたのみで、集落の様相は見受けられない。弥生時代中期から竪穴建物を中心とした集落が展開したとみられ、以降、断続的に集落が継続することが確認された。古墳時代後期から掘立柱建物も伴うようになり、鎌倉時代では掘立柱建物が主体となった。平安時代から区画溝が認められるようになり、江戸時代後期以降には井戸が開削されるようになっている。 扇状地端部の崖面近くに立地する本遺跡は、古くから崖端部付近の微高地上に集落を構えたものであり、扇央部は湿地の状態で土地利用は進まなかったと見られる。中世後期以降に、三ツ口池の構築などの土木工事により徐々に土地開発が進んだものと考えられた。							

第167集 御山寺遺跡

御山寺遺跡の調査は、一宮春日井線整備事業に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じての委託事業として本センターが平成16年から平成19年、そして平成21年の5ヶ年にわたって発掘調査を実施した。調査面積は合計で13,970㎡である。遺跡は犬山扇状地端部に立地し、旧五条川の左右両岸に広がる。標高は10～11mである。

調査の結果、縄文時代の包含層、古墳前期の集落と墓、古代・中世の集落、中世後半の大溝、江戸時代の墓地などが検出されている。

報告書作成に向けた整理作業は平成21年に開始し、平成22年度には印刷・刊行を行った。(石黒立人)



04B区SK340出土土鍾実測図

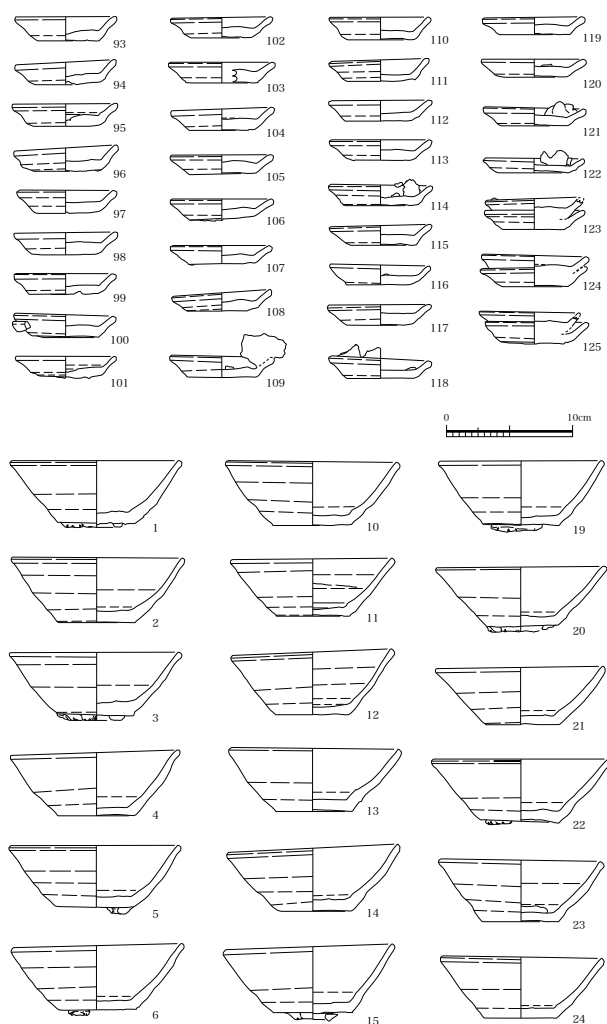
報告書抄録

ふりがな	ごさんじいせき							
書名	御山寺遺跡							
副書名								
巻次								
スリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第167集							
編著社名	石黒立人・鬼頭剛							
編集機関	公益法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦2011年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	〇 〃	〇 〃			
ごさんじいせき 御山寺遺跡	あいちけん 愛知県 いわくらし 岩倉市 なかのまち 中野町 すずいまち 鈴井町	23228	110007	35度 17分 18秒	136度 52分13秒	2004.4（範囲確認） 2004.6～9（本調査）	2,580㎡	県道一宮春日井線街路新設改良工事
						2005.4～9	3,890㎡	緊急地方道路整備事業3・3・8号一宮春日井線
						2006.5～11	3,000㎡	緊急地方道路整備事業3・3・8号一宮春日井線
						2007.4～ 2008.2	4,150㎡	緊急地方道路整備事業3・3・8号一宮春日井線
						2009.5～6	350㎡	緊急地方道路整備事業3・3・8号一宮春日井線
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
御山寺遺跡	集落	縄文時代 ～ 江戸時代		竪穴建物跡、 方形周溝墓、 掘立柱建物、 溝、 井戸 墓地等		縄文土器、 土師器、 須恵器、 灰釉陶器、 瀬戸美濃窯産陶器、 金属製品等		中世・戦国期の東西に走る大溝
文書番号	発掘届出	(15埋セ第115号・2004.3.2、16埋セ第113号・2005.3.8、17埋セ第***号・2006.3.20、18埋セ第106号・2007.3.20、21埋セ第2号・2009.3.30)						
	通知	(15教生第7212号・2004.3.17、16教生第2082号・2005.3.11、18教生第44号・2006.4.12、19教生第1号・2007.4.3、21教生第115号・2009.4.13)						
	終了届 保管証 発見届	(16埋セ第55号・2004.9.30、17埋セ第61号・2005.10.3、18埋セ第63号・2006.11.14、19埋セ第113号・2008.3.11、21埋セ第37号・2009.6.29)						
要約	本遺跡は、犬山扇状地端部付近に立地しており、西部では旧五条川の流路によって分かれている。調査では主に古墳時代前期から中世にかけての遺構や遺物が確認された。古墳時代には旧五条川の両岸に集落が営まれて、東部に方形周溝墓が築かれた。古代から中世前半には主に左岸側で集落が継続して営まれた。中世後半には集落南縁を区切るように幅6mの大溝が東西方向に掘削された。江戸時代初期には旧五条川左岸よりに墓地が設けられた。今調査で当該地域の長期にわたる集落を含めた景観変遷を復元する上で貴重な資料を得ることができたと考える。							

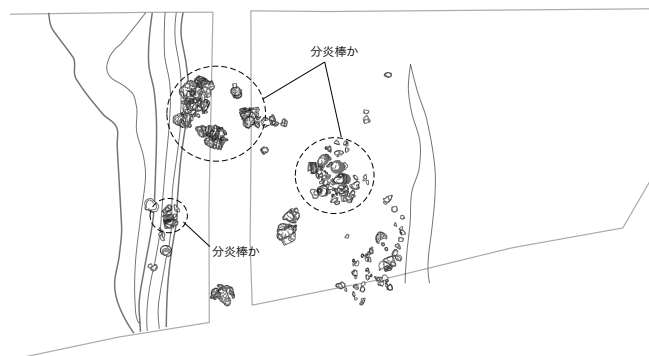
第170集 上品野E窯跡

上品野E窯跡は瀬戸市上品野町地内に所在する。瀬戸市北東部、通称品野盆地の北東側の丘陵上に構築された中世～戦国期の平山城、桑下城跡の平成20年度調査中に新規発見された遺跡である。本窯の調査も国道363号道路改良工事に伴う事前調査として平成22年度4月～7月の期間で360㎡の面積について行い、8月から整理・報告書作成作業にとりかかった。

東西方向にのびる標高200m前後の尾根の北向き斜面に築かれた窖窯であり、窯体1基と付随する前庭部平坦面、土坑、排水溝などの遺構が検出された。また窯体の遺存状況が比較的良好であったこともあり、焼成室天井、ダンパーの一部なども確認された。尾張型山茶碗第8～9型式、14世紀頃操業した山茶碗専焼窯であり、これまでに見つかった尾張型山茶碗窯の分布域では北東端に位置する窯跡である。(武部真木)



窯体内出土遺物



遺物出土状態と焼台の角度

報告書抄録

ふりがな	かみしなのイーかまあと							
書名	上品野E窯跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第170集							
編著者名	武部真木(編集)・鬼頭 剛 小林克也・藤根 久・Lomtadize Zaur(パレオ・ラボ)							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦2011年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみしなの 上品野 イーかまあと E窯跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	300962	35度 15分 25秒 (世界測地系による)	137度 8分 24秒	2010.4 ～2010.7	360	国道363号 道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上品野 E窯跡	窯跡	縄文時代 鎌倉時代	陥穴 窯体(1基) 前庭部	石器・須恵器 山茶碗・小皿				
文書番号	発掘届出(21埋セ第143号) 通知(21教生第2738号) 終了届(22埋セ第120号) 発見届・保管証(22埋セ第120号) 監査結果通知(22教文第1140号)							
要約	戦国期桑下城が構築される以前に操業を行っていた窯跡の調査。山茶碗専焼窯(尾張型8～9型式)であり、窯体天井部の遺存状態が良好であった。焼成室の形状、ダンパーの一部などを確認した。							

